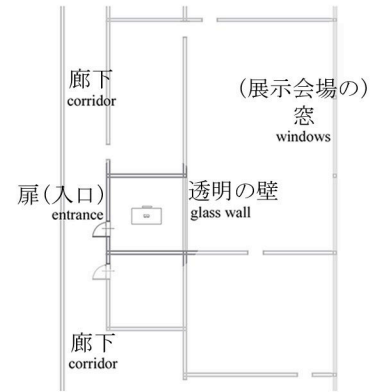




(Open Letter) 公開書簡／手紙を開いて

2003

インスタレーション(凸版印刷された手紙、17世紀オランダ様式の家具、プレキシングラス、ロープ)
オランダ・アムステルダム



(左頁) 手紙を読む観客 (右頁、時計回り) 展示会場の地図と構成; 机の上の凸版印刷された手紙; 透明の壁の向こう側から見たインスタレーション風景; パフォーマンスへと転じた一観客、それを見つめる他の観客がガラスに映る

アムステルダム中心で運河沿いの家に住み、その巨大な窓を通して街路樹の緑や陽光を楽しむ一方で、日が暮れて明かりを点すと、家での生活が舞台上上げられたかのように感じられた。

オランダのカルヴァン主義やフェルメールの絵画に触れながら、アムステルダムで眼差した社会の構造や精神性をカーテンのない窓に投影する。

窓辺の駆け引き

窓を通した視線の往来に着想を得、公と私の間の微妙な駆け引きを扱ったインスタレーション。全盛期のオランダ絵画のモチーフであり、コミュニケーションの術でもある手紙により、一観客の個人的な作品体験が他の観客たちへのパフォーマンスへと転ずる。

振り付けられた作品体験パフォーマンス

長い廊下に「一度に一人のみ入室可。手紙を開き、読んでください。」と書かれた扉。扉の向こうで作品と個人的に対面することを思い描きながら、観客は足を踏み入れる。17世紀オランダ様式の机と椅子、机の上には白い手紙。それらの向こうにある壁は透明で、他の観客の視線にさらされる。

展示会場の別部分にいる窓の反対側の観客には、一人の人間が部屋に入り、机の上の手紙を開く様子が映る。遠目にはただの真っ白な紙。つかの間の困惑と葛藤の後、その人物は何かを読むように左右に視線を走らせ始める。

公然の私信

「私の愛しい人」に宛てられ、名前の明かされない差出人と「あなた」との関係を反映した手紙。誰かの手紙の盗み読みではなく自分に差し出されたと感じられる、観客それぞれの人生に当てはめられるような文面。白紙にインクを使わずに凸版印刷したため、とある角度からの光を受け、ひとつひとつの文字が影を落とすことで判読可能となる。作品タイトルは、公開書簡を意味するとともに、手紙を開くという行為も示す。







My dearest

It is enough

*You always kept me waiting. Sometimes you even forgot
my appointment and never apologized to me.*

*You never looked me in the eye when I was talking about
the things which mean a lot to me. You laughed at the
moment there was nothing funny to laugh about.*

*These kinds of attitudes irritate and confuse me. I have the
impression that you did not take anything seriously. I feel
neglected.*

Do not stand in my way. It is none of your business.

Leave me alone. Go away and get out of my sight.

Love